

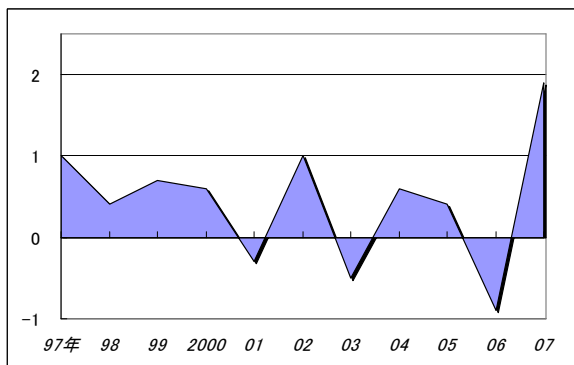
・・・12月 冬の到来・・・

近年の冬（12月から2月）の全国的な特徴は「暖冬」傾向が顕著に現れ、日本海側地方の降雪量は平年並みか少ない傾向が続いています。日立の気温についても2001年・2003年・2006年を除いては平年よりも高く、ほぼ全国的な傾向と一致しています。（下表参照）

特に、昨年（2006年12月～2007年2月）の平均気温は平年より1.9℃も高く、1952年（昭和27年）に観測を開始して以来一番の暖かい冬となりました。

【日立の冬季平均気温平年差 ℃】

（1997年～2007年）



さて、今年の冬の寒さが気になるころですが、過去ラニーニャ現象が発生している年の12月は、日本付近に寒気が南下しやすい傾向がみられました。

しかし、10月下旬に発表された気象庁の長期予報では、北日本中心に寒気の南下を予想していますが、寒気の影響は平均すると小さいと予報されています。

＜気温・降水量確率予報：関東甲信地方＞

12月は平年同様に晴れの日が多くなり、気温は平年並の確率が40%。降水量も平年並の確率が40%の予報になっています。



日立の気候表 平年値（1971～2000年）

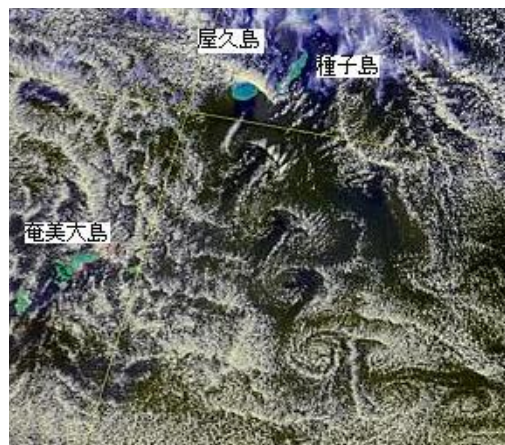
	11月	12月	1月
平均気温	11.8℃	7.2℃	4.5
降水量	81.2mm	31.3mm	46.3
日照時間	161.9時間	189.9時間	195.0時間

【気象現象の不思議】

「カルマン渦の雲列」

空気や水の流れの中に障害物があると、下流側にほぼ等間隔に並ぶ2列の渦が発生します。この現象は研究した人の名に因んで「カルマン渦」と呼ばれています。

風の強い日に電線がヒューヒューと鳴ったり、旗がはためくのもこの渦が関係しているためです。



【屋久島の南のカルマン渦の雲列】

冬の季節になると気象衛星の画像でも、韓国の済州島や屋久島（高さ2000m程度の独立した山がある）の下流側にカルマン渦による雲の列がよく見られます。

この雲列はほとんどが層積雲で構成され、高さ1km付近に気温の逆転層があり、風向がほぼ一定で比較的強い風が吹くなどの条件がそろって発生します。

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso>

行政放送（ケーブルテレビ5ch）でも定期的に天気予報をお知らせしています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP電話 050-5528-5066 へどうぞ。